

エボラウイルス病に関する基礎知識

エボラウイルス病とは？

エボラウイルス病とは、ウイルスによる急性熱性疾患で、感染したヒトや動物の血液や体液に触れることで感染が拡大し、その致死率は25%～90%とされています。

初めて感染が確認されたのは、1976年スーダン（現南スーダン）とザイール（現コンゴ民主共和国）のエボラ川流域でのこと。以後2014年9月時点に至るまで、20回以上の著しい感染・流行がアフリカの中央部で発生しています。

※エボラウイルス病という名称は、上記エボラ川からつけられました。



図1 エボラウイルス

出典) CDC ホームページ (http://phil.cdc.gov/phil/details_linked.asp?pid=10815)

どんな症状？

エボラウイルスの潜伏期間は2日～21日で、発症するとその進行は非常に早く、初期症状としてインフルエンザやマラリア等に良く似た発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、咽頭痛等の症状が現れます。重傷化すると嘔吐、下痢、腹部痛、低血圧等症状が現れ、さらに悪化した場合には出血やショック症状等を引き起こし死に至ります。

感染経路は？

エボラウイルスが存在するのはオオコウモリの体内と考えられています。これが野生動物（ゴリラ、チンパンジー、サル、アンテロープ、ヤマアラシ等）に感染し、さらに野生動物の血液や体液に触れた人へと感染したと考えられています。

エボラウイルスはヒトや動物の血液・唾液・汗・母乳等の体液、排泄物等に、創傷のある皮膚や粘膜を介して直接接触することにより感染します。一般的に症状のない患者からは感染せず、空気感染もしません。

WHO（世界保健機構）によると流行地域でもっとも高い感染リスクに晒されている人々は

- ①感染者の治療にあたる医療従事者
 - ②感染者の家族等の近親者
 - ③感染者の埋葬式や葬儀への会葬者（遺体に直接接触する風習があるため）
- としています。

治療法はあるの？

現時点でワクチンや治療薬はなく、経口補水液や抗生物質等による対症療法のみが行われています。

2014年の西アフリカにおける大流行を受けて、研究段階にある治療法の検証が進められ、現在2つのワクチンの治験が行われています。

予防のために何をすればよいの？

エボラウイルス病の予防には、

- ・感染が疑われる人の血液や体液に直接素手で触れない
- ・動物を扱う際は防護服やグローブ等を着用し、動物製品（肉や血）は十分加熱処理する
- ・こまめな手洗いや消毒など衛生管理を実践するなどにより感染リスクを軽減することができます。

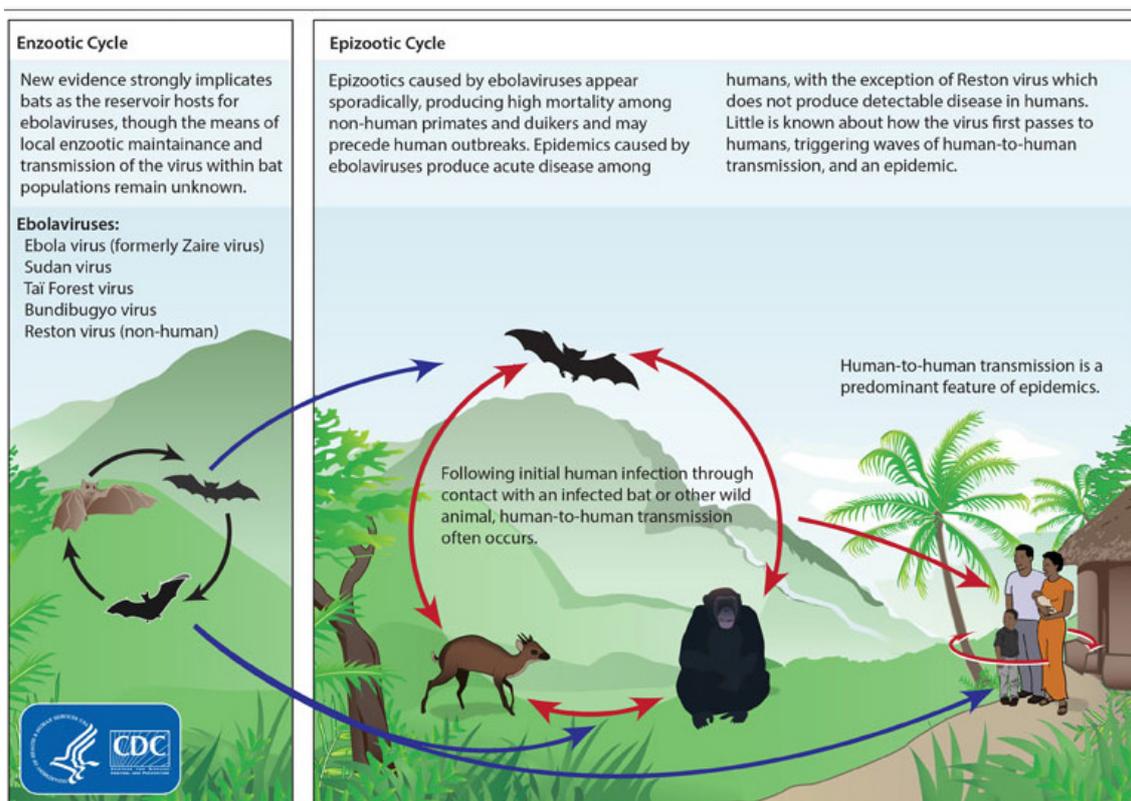


図2：エボラウイルスの感染経路

出典) CDC HP (<http://www.cdc.gov/vhf/ebola/resources/virus-ecology.html>)

<参考ページ>

WHO:

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs103/en/>

<http://www.who.int/csr/disease/ebola/faq-ebola/en/>

国立感染症研究所:

<http://www.nih.gov.jp/niid/ja/kansennohanashi/342-ebola-intro.html>